



ペンネーム	juuza
<b>【エピソードのタイトル】</b>  監督。	
<b>【エピソードの内容】</b>  監督と言っても、私達同級生ランナーの中で一番の経験者と言う事で、私達が勝手に「監督」と呼んでます。 私達同級生ランナーは、関東チームと北九チームの二つで編成しているのですが、「監督」は関東チームで頑張ってます。 関東チームは去年の下関海響マラソンで全員、完走しました。 この功績は各自の頑張りはもちろんの事ですが、チームを纏めた「監督」の功績も光ってます。 そして、それがハッキリ分かりました。 私も仕事柄時間的に、一人で練習する事が多かったのですが、1000 キロ離れた関東から、電話やメールで、私の練習を何時も気づかってくれました。 そしてメールやり取りの中で、一番感動したメールを紹介したいと思います。  私 「頑張って練習してるけど、ペースが上がらない」 (ペースが遅いので一緒に走れないと言う意味で) 「レベルが低くて、ゴメン」 「でも、自分の目標タイム通りなので、焦らず頑張って練習するね」 と、送ったところ、 監督 「僕の最初のフルマラソンの結果は4時間45分でした。」 「前半は物凄く好調で過信し過ぎた結果、37キロから膝が折れた様な激痛で歩くのもしんどい状態でした。」 「フルマラソンを舐めてました」 「実力を知ってる君とは大違いでした。」 「自分の目標通りのタイムで頑張ろう」 「マラソンは自分との闘いだからレベルなんて関係無いし、完走したら何とも言えない感情が湧いてくと思うよ！」 「この歳になって努力したり、感激出来るのは素晴らしいと思いながら走ってます。」 「一緒に目標に向かって頑張ろう」 と、返信が届きました。  「感動」と共に「感謝」の気持ちで一杯になりました。  ※「監督」と共に挑む2011年、下関海響マラソン。 私にとって、私達同級生ランナーの最高のステージにしたいと思います。 そして、「完走」と言う二文字を「監督」と同級生ランナーとそして応援団のみんなと共に分かち合える様、頑張りたいと思います。	